

農業版事業継続計画書 簡易版

策定・改定日	令和3年10月4日	従業員・家族共有日 (原則策定・改定日から1ヶ月以内)	令和3年11月1日	次回改定予定日 (原則1年毎に改定)	令和4年9月30日
想定リスク	時期:2月頃 想定災害:雪害を想定、その他の災害にも対応 自宅の状況:停電、交通途絶(路面凍結) 圃場の状況:停電、交通途絶(路面凍結)(施設の倒壊は考慮しないが、飛来物などによる一部損壊は考慮する) 作業場の状況:自宅近く(状況は自宅と同じ) 機械置場の状況:自宅近く(状況は自宅と同じ)				

1. 基本方針

緊急事態発生時には、以下の基本方針に則り対応する。

1	お客様、社員の命を守る
2	ハウスを守る
3	いちごを守る

2. 重要業務と目標復旧時間

以下の業務の復旧を最優先とし、目標復旧時間内の復旧を目指す。

重要業務	いちごの収穫、観光農園
目標復旧時間	災害終息後 2週間

3. インフラ等の被害による重要業務への影響と対応(代替手段等)

種別	影響	対応(代替手段等)
電気	ハウスの天窗、カーテンの開閉ができない	手動実施
水道	地下水の汲み上げ施設が稼働しない	①自家発電機の利用、②手動実施
情報通信	取引先へ連絡が取れない	①携帯電話の利用 ②E-Mailの利用
交通	観光客が来れない 従業員が帰宅できない	いちごの収穫、冷蔵保存 売店待機
ほ場等	飛来物などによる一部損壊	いちごを守る程度に応急対応
その他		

4. 事前対策の実施状況

分類	項目			
ヒト	安否確認手段	電話、Line	連絡体制	社長より全員に連絡して安否確認
	避難場所	待機場所:売店 帰宅したい従業員に関しては、路面凍結等に十分注意することを喚起して帰宅させる		
	欠員時の対応	責任者が行う		
	その他	●市ハザードマップを参照にして責任者が待機を判断(気象情報により警戒レベル3が出た場合は待機とする)		
モノ	設備使用不可時の対応	いちごが毀損しないことを優先して補修を行う		
	調達支障時の対応	特になし		
	その他			
カネ	手元資金	現金および預金 ●円		
	その他	タンス預金として●円確保しておく	備考	
セーフティネット	保険加入	火災保険(●●)、地震保険(●●)、ハウス、機械等(●●)、収入保険のメリットを税理士と確認した上で加入検討		
	その他	取引銀行:●銀行	備考	保険証券保管は自宅、コピーは売店保管
情報	重要情報保管場所	PC(パスワード:責任者保管)		
	PC等使用不可時の対応	クラウドおよび外付けHDD(自宅保管)を利用(パスワード:責任者保管)		
	その他	関係機関の連絡先や担当者を把握し、責任者が自宅に保管および一覧表にて紙で保管(売店)		
地域連携	●●農林振興センター、JAいちご部会と協力して早期復旧及び情報収集を行う			

5. 緊急時の体制

総括責任者(代理者)	事業継続担当責任者(代理者)
代表取締役:A氏	取締役:B氏

【初動対応フェーズ】(目安:緊急事態発生～24時間以内)

○状況確認

確認対象	担当者	
役員・従業員	家族を含めた安否確認	責任者:A氏
建物・設備	ITを含む状況	責任者:A氏
その他事業資源	肥料・飼料・農薬等の在庫	責任者:A氏
取引先	状況確認	責任者:A氏
インフラ	電気・ガス・水道・交通等の状況	責任者またはC氏
その他		

○備蓄品の状況

品名	数量	簡易トイレ	数量
救急箱	1セット		30個×1セット
飲料水	500mL×4ケース	トイレトペーパー、ウェットティッシュ	各1セット
食料	4人×4日分	カセットコンロ	1個(ボンベ3本)
ポリ袋	1セット	携帯ラジオ	1台
軍手	4セット	懐中電灯	1本
備考	●市ハザードマップP43を参照して適宜追加する		

○出勤・帰宅ルール

状況	原則ルール(警戒レベル3以上)
出勤時	売店待機(原則)、状況によって帰宅も可とする
在宅時	自宅待機
その他	

【事業継続フェーズ】(目安:初動対応完了後～)

○重要業務継続の具体的方法

対応手順	担当者
①現状把握(発災～24時間以内) ・作物、圃場、施設、農業機械の被害確認 ・対応可能従業員の安否確認	責任者:責任者 代理者:代理者
②作業準備(災害終息～3日以内) ・従業員への指示、●●農林振興センター、JAへの連絡 ・顧客を受け入れられる状態であるかの確認 ・交通状況の確認	責任者:責任者 代理者:代理者
③作業の実施 【いちごの収穫】(災害終息～1週間以内) ・収穫作業の実施 ・破損した施設の補修	責任者:責任者 代理者:代理者
※災害終息:警戒レベル2以下(状況に応じて責任者が判断)	

○教育訓練の実施

実施方法	担当者
防災訓練を年1回実施(初回:1月 2回目以降:毎年7月) ①机上訓練 ②電話連絡網・緊急時通報診断 ③バックアップしているデータを取り出す訓練	責任者:責任者 代理者:代理者

BCP策定後の運用

日頃から緊急時における対応を家族や雇用者と話し合ったり、実際に訓練を行っておくことが重要であり、そうすることで緊急時における各人の行動が明確になり、復旧までの時間を短縮できます。また、「1年に1回は見直す」「策定したら1ヶ月以内に皆で確認する」などルールを決めて、運用を心掛けることが重要です。